

横浜市立南戸塚中学校

2019年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標

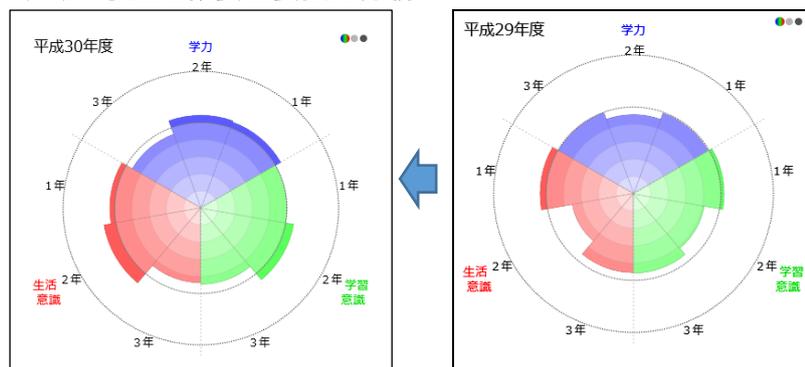
- 「チーム南戸塚」として組織的な学校運営を行い、「誰もが・安心して・豊かに」生活できる学校づくりを目指します。
 - ・ 生徒、保護者、地域が参画する学校評価を実施し、根拠に基づいた改善を重ねます。
 - ・ 生命を大切にすることを第一に考えた、安心、安全な学校づくりを目指します。(体)
 - ・ いま求められる力を理解し、参加型の授業を実践しつつ学力向上に努めます。(知)
 - ・ 主体的な活動を支援し、自尊感情を高めます。(徳)

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	授業改善	確かな学力、学習意欲の向上を図るための授業改善を行う。 主体的に学習に取り組む授業の研究を進め、学力の充実を図る。	学力学習状況調査の結果を分析し、各教科の課題を明確にし、授業に生かすよう心がけます。 定期的に授業研修を行い、互いに切磋琢磨し授業改善に役立てます。 学習指導要領の理解に努めるために、研修をすすめます。
	研究部 教科会		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



新3年生は、横浜市の平均より高い状況である。国語では話す・聞く力の向上が見られる。社会・数学・音楽・体育・技家に対する意識が高く、とくに社会の学力が向上した。理科の意識は市の平均並みだが、大幅な学力の向上が見られた。新2年生は、全教科の学力が市の平均より高く、特に国語が高い。意識については教科によって大きなばらつきがみられるため、今後の推移を注視したい。

引き続き、毎時の指導目標と評価の方法を明確にして授業に臨むことを今まで以上に定着させ、生徒の意欲をさらに高める授業をおこなうなど、学校全体での研修を今後も進めていきたい。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：新3年は、「話す・聞く能力」については向上が見られたが、市平均を下回る「国語の意義」を感じさせる授業内容を取り入れる必要がある。
- 社会科：新3年は学力・学習意識ともに向上し、新3・2年ともに市の平均を上回っている。いずれも思考・判断・表現の力をさらに高める工夫が必要。
- 数学科：新2, 3年ともに市の平均を上回っているが新3年は知識理解の観点が低下している。確実に知識が定着するような工夫をしていき、さらなる技能の向上や思考の深まりを目指す。
- 理科：新2, 3年ともに市の平均を上回る力がついてきた。しかし、学習に取り組む意欲に差がある。主体的に学習に取り組む態度が向上するような授業を展開したい。
- 英語科：新2, 3年ともに英語を使って熱心にコミュニケーションを図ろうとする姿勢があるので、よりいっそう基礎学力の定着を目指し、英語を使ったコミュニケーション活動の充実を図る。
- 音楽科：新2・3年生ともに勉強が好きで、かつその大切さを感じている生徒が多い。
- 美術科：各学年、作業には真面目に取り組む、技能は年々低下傾向である。生活経験が少ないのが一因と思われる。
- 保健体育科：3学年ともに学習意欲が高く、保健体育に積極的に取り組む生徒が多い。毎日の授業前の準備運動で体力レベルも増加傾向にある。課題としては集団授業の中で個別に指導していくことやICT機器を活用していくことがあげられる。
- 技術・家庭科：作業することは好きな生徒もいるが、技能が低下しているように思われる。

3 2019年度 学年・教科等としての具体的取組

国語科

- ・生徒一人ひとりが主体的に考え、それを発言・発表する場をこれまで以上に設ける。
- ・3年間を通じて、副教材の漢字ワークを有効に利用し、漢字の習得に努めさせる。

社会科

- ・副教材のワークを有効活用し、生徒同士で教えあう場面などを設定することで、基礎的な学力や思考力・表現力の向上を目指す。
- ・生徒の学習意欲を向上させるために、ICTを利用した授業を展開するよう努める。

数学科

- ・毎時間授業の目標を明確にし、授業中のやり取りの中で、一人ひとりの生徒に適切な評価と改善のための手だてを行う。
- ・発問に工夫をこらし、何をどうやって学ぶのかを分かりやすくする。

理科

- ・授業時にグループワークの実施や新たにICT機器を取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組む意欲を高める。
- ・分野ごとに演習問題の行うことで、基礎学力の定着を図る。また、実験後の協議・発表を通して思考・判断力の向上を目指す。

音楽科

- ・歌唱や器楽の基本的な技能を身につけ、音楽のもつ美しさやよさを感じ取る。
- ・歌唱や器楽の演奏において、主体的に音楽表現を工夫してよりよい演奏を迫る。
- ・鑑賞の活動において、音楽を形作っている要素に着目してその曲のよさを味わう。

美術科

- ・各学年、課題のねらいと目標を設定し、それぞれの生徒の進度に合わせて指導できるように環境整備を含めてわかりやすい授業を目指す。
- ・鑑賞の授業を充実させるためにICTを活用し、興味をもって取り組める授業を展開する。

技術・家庭科

- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

英語科

- ・「聞く・話す」から「読む・書く」につなげる、4技能をバランスよく取り入れた活動を行い、コミュニケーション能力の基礎を養う。
- ・SEPRO（スーパーイングリッシュプログラム）を実施し、英語を使う必然性のある活動を行う。

特別活動

- ・実践的な活動を通して自ら学び、考え、行動する力を育てる。
- ・話し合い活動などを充実させ、コミュニケーションの力を伸ばす。
- ・自己理解を深め、適性に合った進路を選ぶ力を育てる。

総合的な学習の時間

- ・横断的、統合的な学習を通して、他者や社会と関わる力を育てる。（特に活動の中でのやり取りを大切にする）
- ・言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の育成に努める。

個別支援学級

- ・個別の指導計画に基づき、一人ひとりに応じた基礎基本が身につくよう、『繰り返し学習』を徹底する。
- ・交流及び共同学習や豊かな体験学習を通して、自分を取り巻く人々や環境と関わり、自立と社会参加の態度を育てる。

保健体育科は「体育健康プラン」に、
道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載